

浪花巫山之夢 卷七八

遠13
2494
5-4



四ノ巻
番2494
巻5-4

浪花西山の巻七

大塩一味之者 御門之
其之を海に置し

安富徳蔵

三年 二十八

乃之長少人達之届有之 彼場
おわく材拂 古成以好河船身台町孝有

東京区大保
町百拾番地
坪内雄藏

東京区大保
町百拾番地
坪内雄藏

世に成りし大抵平八郎かゝる由に
在り人不言易企可怖く彼一語も
其も平八郎改辰同延方同
後意致其具未携人殺押出以海
平八郎其民代昂以大殺改辰之大故
所懐依市中とを燒拂其家其重恨
多民に告つて其種付加付下殺者
多衆知し其和殺中少以延後意
小かり所を放火及礼坊以年中平八郎

其意に依り百姓町人其城中蔵一か替り
込り其後其進退法一殊に意ありとの
とも捕方人の殺るは其之難也其後其
一旦平八郎其階下迄其始末其
其門廻り上鞆

河原高延寺村

百姓

忠古也

其名新也

い者とも後日付此世中力世節を
大信より節之者易命一味心多一居り
石企多紀と多事一 加勢少多一以
後成心石村百姓亦多し教呼何位是
力世節一たり一節慶同人是事是
加勢一我れり一亦く身為可相成
林と中少日付為多し其多しとの事も
本初又ハ中藏法意より一ハ也也世節用
意成多し法能行能ホ右くとの事也

為持持長柳村と一は成能新多し
平八節殿起之流うもたまり女世節
二身係也立回人方がう一。世作
等も也一多一忠右多一信と一多事紀
節亦う一中結つた多し始末不屋多し
身存命う一人も一門上上柳門

柳門上口村

興石馬伴

事多節

此者後大場平公卿のくま同くま子こお
ちり同どう人ひと親おや中ちゆう小こ子こ並ならび進すするる近ちか親おや交まじ
後のち示し公こう卿けい外ほか官くわん勅とく企きしる方かた一ひと太たい前ぜん権けん
小こうう門もん入いるる為ため忠ちゆう孝かうによちちもも不ふ成じやうるる不ふ
ちちのの向むかひひししるるもも昨きのう令たまへへ有あるる補おぎな給たまへへ
拙せつ公こう卿けい不ふ成じやうるる同どう人ひと中ちゆう少せう少せう以もつ成じやう不ふ成じやうるる
使つかもも不ふ成じやうるる拙せつ公こう卿けいによ血ちゆう判はんしる方かた一ひと各おの
年とし公こう卿けい旋まわりり重おもくく世よ派はおお給たまへへ也なり門かど
天あま地ち也なり出い火ひ立たちちしる同どう人ひと方かたによ延のび付つける

ふふ右みぎ旋まわりり重おもくく世よ派はおお給たまへへ也なり門かど
會あひまひ名な前ぜん少せう及およびび成じやうるる方かた一ひと各おの
吏しくく中ちゆう傳でんしる後のち平へい公こう卿けい養やしやう子こ拙せつ公こう卿けい
厚あつ愛あい用もち海うみ地ち埋うりり少せう官くわん大たい將しやう子こ也なり也なり
致いた成じやう中ちゆう少せう官くわん村むらとと水みづ了りやう後のち並ならび多おほ成じやう以もつ美み箱はこ
袋ふくろ入いるる撤たく文ぶんおお後のち公こう卿けい情なさけおお給たまへへ也なり
必かならず心こころ附つ右みぎ旋まわりり會あひまひ九く次じ也なり也なり者もの也なり
中ちゆう編へん右みぎ平へい公こう卿けい方かた一ひと官くわん也なり也なり上うへ太たい撤たく
文中ぶんちゆう封ふう 公こう儀ぎ思し多おほ事こと也なり也なり

書載之... 汝進言及見... 汝身亦女... 車宵... 物... 文... 付死罪

河列守身村

秀和也... 乃在... 以

同人... 送身

後二席

以者... 故... 重... 親... 代... 加... 勢... 可... 政... 名... 存... 右... 與... 中... 少... 以... 三... 付... 政

因念夫世間下男之偽古貨在處に
移進いんしん白平八節亦市中放火及礼坊
以後所集白同人より譲文日口振免成
常事を放火しく若果お持はせよ以始末
不慮に付存命ぞうめいを以て死罪しざい

栴別殿若寺村

百姓印三信

本有より大塩平八節著書に格と西屋
敷田湯池と堀の人の食ころ産産は同来

價高直る法民及難民以後付大坂
市中じいちゆう家家亦敷新持く重信成
分を起り様こひ為干節去て正連
若亦承知こりりミナリ知殺者亦八節
中少脚平及者進不官易後七
乃無道知く流事乍時同人我
一檢略記けんりやく不校後難才早く人吏
川達系辰中少のをも右企及起与
祭能切同人合人食入用之由村同言

忠義書上傳云之類中歎小節之文
こも大勢門連途中まゝく、此出の
始末不慮、有存命こゝろ、死罪

河原守口所

百姓差奪

以者其後大指平八席氏と救ひ、以後
存立大坂市中、一家家四人、三も贈
金取上、黄氏ト分せ、以積、企小款
幸書、其も、被目、名、氏、同、人、中、出、不

容易、其も、得、其も、親、の、歎、事、海、出、
以後、歎、其も、存、折、成、足、合、味、言、下、被、
亦、と、其、平、八、席、徒、當、其、成、僅、一、
放、火、及、礼、物、捕、方、人、殺、之、打、之、之、迹、
り、中、義、物、を、右、企、し、申、言、お、其、後、善、
延、寺、村、也、其、才、女、也、節、其、平、八、席、為、
加、持、人、是、也、も、大、勢、門、連、活、地、中、地、未、
為、指、能、存、其、後、以、者、免、之、其、方、ら、其、
押、之、三、海、出、其、者、其、方、ら、其、所、其、其、其、と

歟ト平八節ニ賜ル乞フ第ニ力ヲ為シ節一出
少ク及リ是レ其ノ常ノ同ノ人ノ持テ成ル也ト法ニ此
中ニ地ヲ祈ヒ是レ其ノ換ル但シ中ニ小シ而シ便シ候ノ
乃チ其ノ附テ去リ果シ為ル之レ使メ内ノ外ニ結ビ立テ遊ビ白
鳥ノ科ノ鞠ノ遊ノ存ニ安シ成ル所ニ君ノ立
迫ル不レ任シ生レ日ノ始メ不レ節ニ付テ至リ遊ル放リ
中ニ有ル如ク偏ニ父ノ科ノ遠ニ臨ス

折リ段ノ若シ村

而シ徒ニ指テ以テ節一見

節一之一節

以テ者ハ後ニ大ニ場ノ平ノ八ノ節一氏ノ氏ノ故ノ存
立テ為ル表ニ市ノ中ニ富シ家ノ富シ金ノ根ノ取ル上ニ
節一深ニ人ノ中ニ分ニ是レ以テ積ル中ニ合テ親ニ傳ル也ト同ノ意
以テ此ノ一一也ト有ル之レ多ク人ノ殺シ殺シ之レ
以テ後ニ也ト多ク平ノ八ノ節一宅ノ有ル也
是レ其ノ愛シ由ル也ト一一取リ以テ是レ也ト節
竹ノ名ノ傳ル也ト少ク以テ成ル不レ言シ易ニ傳ル也ト
分ニ有ル平ノ八ノ節一葉ノ一一節一中ニとレ信ニ用

致函知之各札管轄之天海邊出也
其意之由兼百性之身分日賜若常
同人言中強付以途中平八節信意之
者之也 括所之德名力之携又之疾地
亦拂及及之文師及及之場中云
以後之代不之容易之傳七も後為繼
同人言中一 信一旦之傷而水
強付以上之飛種物通自存常居以
口及後河初即之身村寺院隠在等云

始末之存之身存命之存 眼差
其上有之重通一節 附之依父之科在馬
人信平八節妻

弟人 孫

以者及主人平八節不之容易之全致以
及之不存之身も 病年春生之した女
平八節之身も 世將之平八節妻
正徳一用物及設若之村忠之身也
此紙邊の中 平八節及之疾以

由をん程又忠を来家内へ安言同也
伊丹伊勢河幸五郎より此誠治止名
存り秋忠を来中より信友に依り
之を解す之を病人を所成中いり文
と存施るより伊も此を凡一回幸五郎
方に止名程存治幸五郎企し以て
之を必知すを命おし方分存治り依
分蔵所之忠立廻り此来不属し附存
命より中逃放す付似依主人より科

遠鴻

跡部山姥吉但方

大西与五郎

い者依程大信平八郎兼ら不答易
右邊の依より不存堂も同人春子格
之助其誠友組に因所智之志及信長
法為筋之長し為征伐下校様は付
其名存急取付後十一平八郎口上
之様格之助中少の信長不問意之候

及接抄同人より中務省公簿に夫見
即ち八種を以ての上より其後極子塔
うねれりちたぐり等宗の抄に群同人大角
亦辨放火及礼坊の抄より其後極子塔
之後より一取海島少儀より一り五
情之氏名系請上より身命と地判
方も下より一取海中より一り中一太角
く名抄者大角等之抄より一り中一太角
亦水神道等宗同人の具大見亦一り五

用生供之等一之隆儀と極建養子
善之通より一善之通一之身より一善之通
其上右隆物と善之通と極之助より
以在之心得より一法より一宗業より一
親族より一飛利隆道より一揚より一在之通
為方より一在之通より一善之通より一在之通
善之通より一在之通より一善之通より一在之通
之通より一在之通より一善之通より一在之通
亦其より一在之通より一善之通より一在之通

投換帰後波の段は波持と名付る
右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ

右の末は右の始末

大西居る

以有後後才大塩平公節も容易企波
古の波記の期も右の末は波持
山城守より結節の波持は右の
と右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ

右紙の右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ
以上右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ
可申此書其節の先は平公節一宅
と右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ
此書其節の先は平公節一宅
と右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ
可申此書其節の先は平公節一宅
と右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ
可申此書其節の先は平公節一宅
と右の末は右の始末を履き居るを
謂ふ

科、中進放

油藏所

英吉屋書

日人妻法

以者書後五節... 後日大臨原... 放也乃及机坊... 一味之者... 福後一有...

之後四方... 公節父子... 知之能... 文成者... 教台年... 女房... 不... 國... 再...

尸流は任也汝之文之任ハ内分は至
以終末中分は終身在會より之
彼名獄ハ任也又ハ遠鴻下ハ任也
与人とも病死

西都山任也任也

古見九師在

世若夫任也一為終身以之存身
之改革下終身之素一任也
任也勤也亦未終身之任也中終身

任也拘り者とも任也中一終身
任也任也終身之存身止之任也
之とも終身任也之終身之終身
之とも終身任也之終身之終身
清也任也一終身任也之終身
終身之終身任也之終身之終身
之とも終身任也之終身之終身
任也任也終身任也之終身之終身
終身之終身任也之終身之終身
任也任也終身任也之終身之終身
終身之終身任也之終身之終身

致之々此之申第段以事以成討五
所味とくため徳後新の事也市中
あ。海とくたふ心。家。家。く多。多。是。是。人。不
寤。氏。氏。分。分。也。一旦。折。折。甲。甲。山。山。口。可
指。指。新。新。少。少。短。短。く。し。子。平。八。八。節。節。中。中。少。少。事。事
口。口。為。為。者。者。知。知。以。以。換。換。く。げ。き。少。少。人。人。讀。讀。少。少。右。右。書。書
中。中。事。事。も。も。多。多。上。上。思。思。多。多。文。文。言。言。も。も。徳。徳。也。也。く
以。以。儀。儀。不。不。言。言。易。易。也。也。も。も。少。少。附。附。微。微。心。心。致。致。事。事
も。も。在。在。く。く。い。い。く。く。右。右。企。企。少。少。一。一。味。味。少。少。事。事

連判の始まるまゝくあやうくく。武。在。有
門。地。下。上。於。大。好。樂。可。下。中。和。對
公。儀。恐。入。賊。徒。為。記。心。第。右。保。斗。く
次。才。將。右。見。莫。右。席。少。成。意。得。以
以。有。法。任。重。少。省。怒。く。上。右。者。自。之。の
後。法。傳。代。少。成。也。少。善。法。入

吉見九節在御所
曰 美右席
河合若右文孫

以者後日組吾大信極し御長父とく
大橋宗八席方之哥、高申同人不言易
企致極し而大崗丁亦これ托し極大失
亦極之く後之る不存極く親者
そのゆり平八席門外也も一同在子
傳心たし一者同人、其御政后と批判
致其上、或城吊ひい大義存之し紙
托對

公儀思多事也も徳我の極行 摺
たやと熊袖市亦在仕之右門外也も
おく亦亦及至淡少との極子及同歩
怪愛取亦勿附りよる素一味と素以者
凡亦分在極文く紙意も其人極信
其付速く一筆極ていたし一也と亦在
神亦容易其と極く父と同存亦極
活立及速く以始末と極く一味小
亦加平八席門外也も亦出處と極く

五くは彼是子辰致之籍之類中其
忠出石八部父河合の在る始一味く
者とも名前不流の書付有る見九前其
より清取同人任中合右企及記以爲
致任といふ有る爲優美振の撰投免之

浪華函山の夏巻之七次

浪花函山の夏巻之八

大塩一味くこの社並の事

函山城守組同心

平山田次郎

い者倭組風く舊弊ホ多行く存分
中はよく改革一致ハ事あり倭組同心
勅命未熟又も我意中慕り風俗拘り

但書中實了生一之方之既既水之方之
掛意之生一之既既水之方之
く向既水對之方之既既水之方之
可法之向既水對之方之既既水之方之
致以折極之方之既既水之方之
方既既水對之方之既既水之方之
大信極之助養父大信極之助養父
少之既既水對之方之既既水之方之
存也之既既水對之方之既既水之方之

良在也之方之既既水之方之
在也之既既水對之方之既既水之方之
直對極之方之既既水之方之
忠系之及極之方之既既水之方之
却之既既水對之方之既既水之方之
不直之既既水對之方之既既水之方之
民既既水對之方之既既水之方之
之之既既水對之方之既既水之方之
既既水對之方之既既水之方之

蘇市中亦也。如之。六家。家。全
眼。不。窮。氏。小。分。老。一。正。折。劫。甲。山。江
一。指。新。何。意。自。年。公。節。中。少。五。十
為。古。知。中。一。若。之。之。人。續。少。在。書。中
之。不。去。以。上。必。多。文。云。也。恐。在。一。以。我
不。容。易。使。之。也。何。附。微。心。致。以。靡。也
有。一。以。連。有。止。一。未。連。到。致。以。如。東。不。屬
之。德。有。能。大。故。門。止。一。上。樂。一。中。有。以
更。封。

公儀忍入。必。與。政。必。被。賊。從。後。起。心。前
右。孫。才。一。也。骨。及。無。孫。以。有。清。仕。意
也。窮。如。一。上。五。來。一。使。涉。舊。代。之。爲。是
小。善。德。入。一。下。其。如。日。教。

平山。西。以。節。小。者

多。助

亦。助

以。者。後。不。堪。一。筋。也。不。事。少。者。之。後。

濃田洲の西条父

濃田茂四郎

高延寺村

次玄街

木次島村

のふ

辰摺村

市右衛門

伊丹植杉村

市右衛門

右へ者も一併p口へ紙大橋平八郎
荷擔之者、由遠下りくりて又一同先達言
病死致す皆臨送し死骸願持

孫那山城守組五郎

大橋橋之助甚父

大橋平八郎次男

弓右衛門

右へ者長依父ちのせうこうふちのせうこう種死罪て中付交

加雅カヤの
能大坂永守ノオホイサカノニギモリ
別院ベツインの
所看ショカン忠誠チュウテイの

仙洞新所演

杉別下教次田村

西宮神主

文徳志摩将

後古所

同人次男

信次郎

同人三男

辰三郎

池田若直法次所

杉原末成那殺者村

百性忠義将

松右郎

同源右衛門将

表依次郎

同人次男

德次席

同傳七傳

若次席

同人次男

仙左席

同人已男

勝左席

藥山茂左馬頭次男所

杉原猪飼也村

司馬之助傳

百性司馬之助

松平任左吉郎分

杉原松山也村

醫陣文裁傳

太次席

同人次男

辰次席

小堀主稅清次也村

河原茂田能守所

百姓茂右衛門

孝右衛門男

同次男

土井大炊政友所

同州同姓門去三番村

百姓九右衛門

昌三郎

同次男

兼他

云波山城守所

同姓志記能守村

百姓七右衛門

利三郎

常三郎

同人次男

豫三郎

在者共依父之村を以

但敷右帝 信右帝 辰三帝 松三帝
德次帝 司右之如 右帝在 辰三帝
寅之如 昌三帝 榮北 右帝
德三帝 右十帝 之親親と也 一領分
右之介 伯父 伯母 甥 姪 孫 親 見 身 右
清仕 並 右 及 清 州 治 以

仙洞新清村

梅原清少歌也園村

西之天神主

宮脇志摩

女房里か

永井去邊所知行不

河原更世羽高安村

百佳作兼女房

ら 大

土井大炊師殿候分

日原茂田村之三番村

百佳那次女房

里り和之入

二十日押也

のゆ

松平任豆与分

折込東成能敷小落村

醫所文我左助北

うた

東廻方

濃田流船妻

里う

松平甲斐守家来

五十日押込

日乃

春本流之助

東廻同心

庄司儀在安妻

寸尺

百日押込

紀伊殿分

摺込信高能担家村

黄染宗

海倉寺

柏宗

五十日通巻

井俣栞郎氏家系

字於本下總

病年付名代

字於本下總

下總才守守傳本郷之久云大橋平八郎
石室居易企之云彼日名名記之尚輕
在果以美之付能之云免難勝手筆
下五並以信之同人碑文待集とも
海老山

大橋格一柳元中間

尚附江戸松本忠温侍

吉助

小松台

い者後格一柳方之事中間同人吉久
系八郎一石室居易企彼日名名記之尚輕
同人長門守才守傳本郷之久云大橋平八郎
以成之書之由之少名于後打之云上
平八郎才守傳本郷之久云大橋平八郎

書 友 隆

以者とも俊右大塩権左衛門前通御
前同人吉江父大塩宗前権左
前中坐高多ノ殺立ノ父尾信
因所ノ形細田名義所ノ可清等
存立高ノ父又御ノ門上岡拔身
携白侍十七ノ人立出大塩中ノ大
討亡高切皆下校ノ系知高ノ二而殺
高中討高ノ進及乱妨ノ父ハ高ノ高也

子細高ノ高右ノ殺所係高ノ高
上勢高山田妙高界高島高上高
高知泊合高同高河村高他使
用高高御高海高同人所持高重子
入高高係高他高高人高持高高
高係高高高入墨敵

江戸橋本町高

元月

以者俊右大塩高前高易高高高

橋平公節小一木少中一市中致少乳
物小切少しいは海と碧連去は河は
弓刺村七在島中一利之節とくもふ在去
同人別若と名宗哲良地泉村海會寺
所化別嶽日通と白尾は出生流傳
一ノ中一傳は誠なせ門とふ人年八節
その伊の佐者あくとのまふ和去と从
流傳く留後者くくし別台男をとも
ふ和乳知たあ人の中一傳を教日共名は致

そくし利之節病死致は身有五並力と義
別嶽去形は通才ありと流の中一
義提与蘇甚は始末の傳有

橋平世系
百性治之節

は者大橋平公節企は別嶽致は
之くとも石佐常は乃門入善門
才せしむる金銀金根を賞入酒は書
は精不賣拂古代重施りり唱白れ
是り長せしむる所は急急く一五計は

心得美文の七門 自然大徳を以て
色に出るを以てりて 平常言の集
り振振昆股若奇村忠義中合せ
少句の多も 名附時平常徳業を
徳大徳市中及致せり 義出光とん徳
友徳ありし忠義と存りて 逢中と
活出上と 存りて 若とも 一曰味と交
系空即 執徳し 忠勇不 徳徳 何連成
致為記 以 深心入 以 忠言 八平八節

執徳と存り 信有 致 異 同 人 致 道 と
企 爲 人 志 美 徳 行 一 君 之 志 と 存 成
く 極 子 成 行 一 存 心 得 以 一 大 劫 無 小
多 紛 白 則 无 多 成 實 後 行 忘 系
尚 徳 節 一 且 大 心 爲 一 一 語 一 之
以 後 道 而 年 八 節 巧 一 忠 勇 忠 勇
忠 勇 成 悔 忠 入 一 一 一 忠 勇 忠 勇
二 何 存 命 一 一 一 新 拂

柳原村

百姓孝義

河原柳原村

同 利右衛門

は老どもも河原柳原村地長中
女中節に西出柳原大坂表長坂中
その有く右有同人柳原大坂中節
休も有く及一對に横中
加信、之を紙に示す、成務校

より、あく男為、之を柳原中節中節の
そのどもも一切教中中節中節中節
く柳原柳原中節中節中節中節
右文節中節中節中節中節中節
公儀中節中節中節中節中節中節
柳原中節中節中節中節中節中節
既中節中節中節中節中節中節
右中節中節中節中節中節中節
中節中節中節中節中節中節中節

孰亦曰人存之味、
其速、
引連、
不能、
未、

天波小鴻河

醫障李白將

貞助

以者後大指平八節企二味、

後者、
中步對

公儀也、
公儀也、
及、
平、
銀、

以能之而法悟者及也也心猶推察又ハ
及目今ととく五年忽之海土若年節
中物くくたが少為多く何一更も
難牙存以速用介と夜無く始末と申す
存命より中並に改

泉沢村北条傳

醫原 寛 怖
日人 妻 二 也

右くよの古伝之寛傳ハ二也申す河原

弓削村七世傳事利帝亦祇大徳樂能
方小止高つ中ハハ折物同人救民斗及
存立留家く金銀多上多氏ハ知悉
く換り世とく一徳業と信味方と改ハ
り下切教杯中少ハ有法者之所在
徳業ハ加り所流系ハ途中擲方及人
く一と速敬述之系ハ名を中少り成
実事と心得て改も未ハ少容易勸ハ上ハ
皇一源出利之帝也くすハ在歌不夜ハ

おもしろく同人中にて何れも其利を皆其
恒皇村海會より相承りて其旨を承
為之退きて其丈寛補大所を勵
其年より其も其利を承りて其旨を承
存再之其旨を承りて其利を承
其分難族中にて其利を承りて其旨を承
同人中其旨を承りて其利を承りて其旨を承
存命より其利を承りて其旨を承りて其旨を承
松河其利を承りて其旨を承りて其旨を承

河原大蓮寺村

大蓮寺隱居其

正 方

い者其利を承りて其旨を承りて其旨を承
大信年八節其利を承りて其旨を承りて其旨を承
人教後其利を承りて其旨を承りて其旨を承
一切教名中其利を承りて其旨を承りて其旨を承
被誤地亦亦拂大信表而中教大及

礼坊は又捕方人殺之は多し近來は
しり中少りし事速若押し海土如親類の
要不便は有る近來若何中は使貨
考し判發日極し安らむ波如家沙衣
理又ハ号を為立退は始末不仁に付
存命より中遊放

二書名 直吉

此書は倭大坂表大坂の諸事記す

若方は其持色を日積る白梅は合御村
前若くは和傷文書系大坂八軒家
色に驚き一旦上陸被立成り世に
名前を存者ども大勢若くは和
者之扱也、論を持絶未理不きり
高和被去由り方中後、旅中少り及
其後よりて実教名中置り何思及
存大信年八節流意り者く、乃何附
其意に、法新くは備前結之近感一節

上流之義及信從初亦此一月分取
 唱金之若出於地勢之傳在重子法
 川中之海以在事之平上右之者上陸
 致之有之強子速之海出如少之強之也
 若變之形物之口之口之右之也拂因分
 致之也此亦在重子傳是河因有也
 權江戶十里四方遊放

浪義西山乃夏卷之八終

浪花巫山



